

# ASAHIKURA

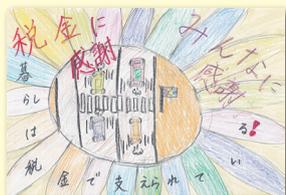
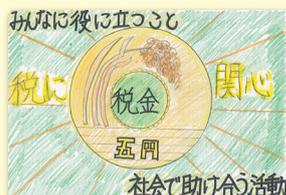
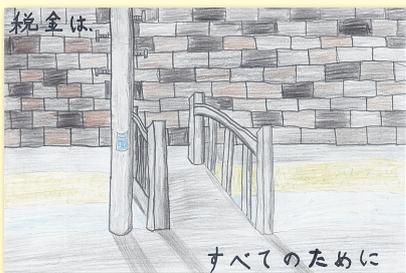
## 小中高生のための

# 税金あさくら

甘木朝倉地区税務連絡協議会

第55号

小学生の税に関する絵はがきコンクール 第8回 優秀作品



税金を考える週間

**11月**

11日(水)~17日(火)

※この作品は平成26年度の優秀作品です。

## 高校生の優秀作文

### ★甘木税務署長賞

#### 「大切に、大切に使われている税金」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 西村 愛理

### ★福岡県久留米県税事務所長賞

#### 「税金の恩恵」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 藤井 奈那

#### 「私たちの未来のために」

#### 税金という名の大きな投資」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 古賀 めぐみ

### ★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

#### 「税と私たちの生活」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 松本 眞美

### ★朝倉地区租税教育推進協議会 会長賞

#### 「税金と私の生活」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 林 萌々音

### ★公益社団法人 甘木朝倉法人会賞

#### 「税について私が考えたこと」

福岡県立 朝倉光陽高等学校  
一年 近藤 裕美

## 中学生の優秀作文

### ★福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

#### 「税金が教えてくれること」

筑前町立 夜須中学校  
三年 三石 怜奈

### ★甘木税務署長賞

#### 「私たちを支える税金」

朝倉市立 南陵中学校  
三年 東 爽椰

### 「高齢化社会と税の関わり」

朝倉市立 甘木中学校  
一年 久保 相棕

### ★福岡県久留米県税事務所長賞

#### 「税金の使い道」

朝倉市立 甘木中学校  
二年 横江 摩耶

### ★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

#### 「少子化と税金、そしてこれから」

朝倉市立 南陵中学校  
三年 井上夏伽怜

### 「税の大切さ」

朝倉市立 甘木中学校  
二年 井手 美結

### ★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

#### 「税の必要性」

朝倉市立 甘木中学校  
三年 酒井 美里

### ★朝倉地区租税教育推進協議会 会長賞

#### 「税について」

朝倉市立 甘木中学校  
二年 永利 美郷

### ★公益社団法人 甘木朝倉法人会賞

#### 「未来へのかけはし」

朝倉市立 甘木中学校  
一年 浜川 真実



#### \* 高校生の作文

甘木税務署管内の高校より、五一四編の応募があり、その中から六編の作品が入選しました。

#### \* 中学生の作文

甘木税務署管内の中学校より、九六二編の応募があり、その中から九編の作品が入選しました。

# 高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 西村 愛理

## 「大切に、大切に使われている税金」

よく「税金の無駄遣い」という言葉を聞きますが、とても大切に使っている人を私は知っています。

小学生の時、少し離れた病院で手術をすることになりました。術前検査を受け、問診を書いている時、技師の方が、

「すごかる？」

と言いました。よく見ると、部屋にある文房具は古く使い込んであり、修理されている物もありました。私はピンと来なくて静かに見つめていると、技師の方は

「新しいのを買ってと院長先生に頼んだら、まだ使えるから使いなさいって言われたんですよ。先生は無駄遣いしない人なんよ。」

と言いながら笑っていました。帰り道すがら母に院長先生はなぜ文

房具を買わないのか尋ねました。すると母は、公立の病院ゆえに税金で買うことになるから、物を大切にと指導されていると思う、と

いった旨のことを教えてくれました。そして、院長先生はどんな状況でも物や人を大切にされる方だから、この先生に手術をしてもらえるのはとても幸せなこと、という励ましの言葉ももらいました。

手術日が近づき、緊張していた私の心は少し楽になりました。前回の手術は二歳くらいの時でしたが、その時のエピソードも話してくれました。その病院では、小さな子供の入院の際は母親と一緒に入院して寝起きをすることになっ

ていて、母が掃除や洗濯をしてくれました。その時、看護師の方が

「古い掃除機でごめんなさい。買

い換えたいけど、なかなか難しくて」

と言ったそうです。いつも医療品以外は節約をされています。

私が手術に不安を抱いていた要因の一つに、その病院がとても古く、レントゲン室に行く通路が特に薄気味悪く感じていたことがあります。そこには子供向けにキャラクターのオブジェが貼られていましたが、それがより一層恐怖心を煽っていました。今考えてみると、こんな所に名医がいるとはなかなか思えないような病院でした。

無駄遣いをせず、物と人を大切にすることのドクターは大変凄い方なのです。無駄遣いはしませんが、尽力をされます。診察から手

術、その後の自立まで、丁寧に決して力を抜きません。先生のとこ

ろにはいつも国内外の医師が学びに来られます。また、後進の育成もしていらっしやいます。

私はこの最高の医療を受けることができて、とても恵まれていると感じました。昨年その病院は新しく建て替わり、古い建物は壊されました。綺麗に生まれ変わったこの病院はまた、たくさんの子供達の人生を助けてくれます。税金は生かされています。



## ★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 藤井 奈那

## 「税金の恩恵」

「『税金』って何？」と聞かれ

たら、皆さんは何と答えますか？

知っているようで実はあまり知ら

ない税金。辞書で調べてみると、

「税金とは、国費、公費をまかなうために国や地方公共団体が一定

の法律手続きによって国民・消費者などから徴収するお金のこと」つまり、私たちが生活していくために国や県に納めるお金を指します。よく聞くものには消費税、酒税、所得税、法人税などがあります。今まであまり税金について考えたことがありませんでしたが、私にとって最も身近な税金について考えてみました。

私は今、税金に助けられています。両親が小学一年生のときに離婚し福岡に引っ越してきました。まだ保育園児だったやんちゃな弟とわがままだった私を育てていくのは大変だったと思います。それによく耳鼻科に弟を連れていってました。あるとき、私は祖母に尋ねました。「何でこんなにしょっちゅう病院に行けると？お金なくならないと？」すると祖母は教えてくれました。「国が医療費を負担してくれるのよ。だから、医療費が八〇〇円ですむのよ。」まだ幼かった私には分かりませんでした。が、中学生になつて疑問に思い調べる機会がありました。我が家が受けていたのは「ひとり親家庭等医療費支給制度」というもので

した。ひとり親家庭等の健康保持と子育て支援の充実を図ることを目的として、税金から医療費の一部を助成する制度です。所得制限がありますが、十八歳までの母子家庭、父子家庭の親及び子、または父母のない子が対象となっています。以前はほとんど税なんて関係ないと思っていました。税と聞いて消費税・所得税ぐらいしか思いつかなかつたのに、こんなに助けられているなんて、と大変驚かされました。この制度を知った時から私の税に対する意識が変わりました。今も弟は二週間に一回病院に通っています。もしこの制度がなかったら毎月三〇〇〇円ほど医療費を払っていたことになりません。しかし制度のおかげで毎月八〇〇円で医療を受けられます。病気になるったときに子を心配する気持ちはどんな家庭の親でも変わらないはず。しかし家庭の事情で高額な医療費を負担する事が出来ないために子どもが体調を崩しても病院に行けないのはおかしいと思います。つまり、この助成金は私たちの「安心」と「笑顔」を守るお金だと強く思いました。

約二年半後、私は十八歳となり働き始めるようになります。働き始めるとは大人社会の一員となり、それだけ責任が重くなるということだと思います。今まで沢山の方が納めた税金によって助けられてきました。これからは私の番です。高校でできるだけ沢山の事を学び、社会に貢献していく力を身につけていきたいです。そして税金の役割を忘れず、国民の義務である納税を果たしていきたいと思えます。みなが笑顔で安心して過ごせる社会にしていきたい。



## ★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 古賀めぐみ

## 「私たちの未来のために」税金という名の大きな投資」

「失礼します。」

「ありがとうございます。」

私たちが通っている朝倉高校では、体育館に入るときや体育館から出る際にはこのように挨拶をします。入学した当初は、挨拶を

するのを忘れていたり立ち止まって一礼するのが煩わしいと思ったりしていました。しかし、今では感謝の気持ちを込めて快く挨拶できるようになりました。

小学校高学年くらいから今に至

るまで学んできた税の歴史や意義・役割。その中でも、私は身の周りにある税の使い道について興味をもちました。そこで私は税に関する作文を書くことを通して、学校の体育館と税との関わりについて考えてみました。

体育館というと、ほとんどの学校にあり設備が整っている学校も多いのではないのでしょうか。そして、授業や部活動で使用しているの、あるのが当たり前という存在になっていると思います。しかし、体育館を建設することができたのも税のおかげだと考えると感謝してもしきれないくらいだと思います。

そしてもう一つ、他の使い方とも考えられます。それは、災害などが起こったときの避難所という使い道です。平成二十三年三月十一日に起こった東日本大震災。当時、小学校の高学年だった私はテレビ越しに見た避難所で生活を送られている方々の姿がとても記憶に残っていました。体育館は、気温の調節が難しく居心地がいいとは言えない状況だったと思います。でも、体育館を使いやすくな

るように工夫している人々の懸命さや税金によって頑丈に建てられていた体育館の存在にどこかありがたさを感じました。また、九州北部豪雨が起こったときにも避難所として役立てられていたそうです。私はまだ一度も体育館を避難所として使用したことはないけれど、いざ必要になったとき頑丈な体育館があれば少しは安心できるだろうなと思いました。と、同時に税は大きな役割を果たしているのだと改めて実感しました。

また、税について調べてみると、次のようなことがわかりました。まず一つ目は、国の一般会計歳出額のうち教育環境の整備や科学技術の発展のために使われる金額が五・二%を占めているということです。五・二%というとなんか感じる方も多いと思いますが、その額はなんと五兆三六一三億円。それくらい大きな額が私たちの未来のために託されているのです。もう一つは、その教育環境の整備などに使われるお金の中に育英事業費という使い道があるということです。この育英事業費というのは経済的理由などで就学に困

難がある学生のためのお金です。自分の将来や夢の実現に向けて勉強するチャンスを与えてくれるのだと私は思いました。

この税の作文を書くことを通して、改めて税に感謝したいと思いました。私たちの未来のために税が投資してくれているのだと思うので、充実した高校生活を送りたいです。

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 松本 眞美



「税と私たちの生活」

私たちの生活の中にはいつも税という存在があります。買い物に行って商品を買うと消費税が、収入に応じて所得税がなど私たちは様々な場面で税を払っています。

そこで私は日常どのような場面で税が使われているのか知るために、今までの生活を振り返ってみました。

私は、幼い頃から今まで教育を受けてきました。教育を受ける場である学校、勉強するために必要

な机や椅子、教科書は全て日本国民の税で建てられたり用意されたりしていることも知りました。小・中学生の頃、学年が一つ上がるともらう教科書には全て、

「税金によって無償で支給されています。」の文字がありました。また、私が通っていた中学校では、学校の全ての教室にエアコンがつけました。先生方には、町のお金でつけられているということをお金で言われました。町のお金とは、

町民のみなさんの税金であるということも説明されました。

また、私はよく図書館へ行っていました。本を借りたり、勉強をしたりとしていました。そんな図書館も税金で建てられました。本を買ったり、維持をしたりするのも税金です。

他にも、新しい公園や図書館などのような公共施設を作ったり、道路の整備をしたりするのも税金なのです。このように考えると、税は私たちの身近なところでたくさん使われているのです。

私は、今まで税についてそれほど深く考えたことがありませんでした。しかし、今回税について考えたことにより、税が私たちの暮らしを豊かに、そして快適にしていると感じました。もし、税がなかったら、道路は荒れ果て、学校できちんとした教育は受けていなかったのではないかと思います。

私の周りにある公共施設や道路は、社会で働いている方たちの税によって作られました。私は、このことを忘れずに公共施設などを税を支払っている多くの方々に感謝をし、今まで以上に大切に扱っ

ていきたいと思えます。そして、自分が税を納めるようになった時には、社会に少しでも貢献しようと思いつつ納めたいと思えます。



## ★朝倉地区租税教育推進協議会 会長賞

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 林 萌々音

### 「税金と私の生活」

私は中学校二年生まであまり詳しい税金の使われ方を知りませんでした。政治のためだけに使われるものかと思っていて、あまり良い思いではありませんでした。政治のムダ遣いのために私たちは払っているわけではないかと思っていました。しかし、私の妹が中学一年生になった最初の夏休みの初日に、妹がけいれんをおこして救急車で運ばれました。私は、救急車は呼べば来てくれ、お金はとらないものかと思つていました。しかし、授業で消防車や救急車、パトカーは税金により使われていると知りました。私も税金を政治のムダ遣いに使わないようにと払っていませんでした。私の妹は助からなかったかもしれないと思うと税金は大切なものかと思えました。

また、私は今病気で毎日薬を飲

み、今までに計四回ほど手術もしています。毎月のように病院へ行って、採血、レントゲン、CTなどの検査をうけています。しかし、料金はそれほどかかっています。私は保険に入っているからだと、ずっと思っていました。しかし、あるときお母さんが教えてくださいました。「保険に入っているから、あまりお金がかからないのは本当だけど、その分のお金はみなさんから集められた税金から払われているの。」と、教えられました。私はそのときは、あまりそういう風には思えず、へえとしか思っていないかでした。しかし、あるとき一ヶ月に二回の連続しての手術をうけました。そのときの手術代は百万円近くかかりました。しかし、保険のおかげで三割、約三十万円ほどしかかかりませんでした。そのとき、私は税金

のおかげで手術ができたんだと改めて思いました。退院したあとの薬代も、元はとても高いですが、私が払うのはほんの少しです。薬の効果の書いてある紙には一緒に、その薬の本来のお金も書いてあります。何百円、何千円とかかる薬の一方で、一つで、何ミリで何千円とかかる薬もあります。しかし、それもほぼ税金で払われています。

私は毎日飲む薬でさえも、誰かの税金が関わっていることに驚きました。しかし、そんな風に誰か

が払ってくれることで私は生きることができています。だから、その分私もだれかの役に立ちたいと思います。



## ★公益社団法人 甘木朝倉法人会賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 近藤 裕美

### 「税について私が考えたこと」

「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負ふ。」日本国憲法にはそのように書いてある。私たちが暮らす世の中には、さまざまな所で税に関している物がある。広い目で見てみるとすべての物が税に関連していると言ってもおかしくはないだろうか。

現在のわが国を見ると義務があるから税を納めている、というように考える。もしも税金が無かったら、これだけたくさんさんの教科書とらめっこすることはなかったと思います。私たちの教育にかかわっている税金は年間一人当たり、小

学生では三十万五千円・中学生は四十五万三百円、そして私たち高校生は三十八万六千円であり義務教育だけでも莫大な金額がかかっています。そんな金額を、私たちは国民が納めている税金によってまかなわれているのです。

これだけではない所です。私たちの生活にささえられ暮らしているのです。母がゴミ出しに行けば、ゴミは自然に回収されていきます。いつも整備された道を通って学校に着き、教科書をひらいて授業を受ける。いつでもどこでも警察が毎日の安全を守ってくれ、風邪を引いたり、病気になったとしても、少ないお金で治療してもらうことが出来る。

こんなあたり前の毎日は、けっしてあたり前のことではなく税金によって毎日が成り立っていると思います。もし税金がなくなったら八%の税金をはらわなくていい分、自分に少しでもぜい沢できると思います。しかし、税金がなくて困る人の方が圧倒的に多いと思います。国民のすべてが困るだろうと言っても、全く過言ではない

と思います。

そんな暮らしの支えになっている税金を、「取られる」と言うのは、やはり間違っている。税金をはらうことで毎日もしもの時に備えている(消費税等)。私たちが暮らしやすい環境にするための(公共事業関係費)。など様々な分野で活用されており、それら全てが私たちの生活にかかせないものとなっている物が多い。

だから私は、決められた法律による義務という観点からではなく、税の中身を自分たちの私生活にあてはめて見ていくべきだと思う。そして税金の素晴らしさや大切さを実感していき、私たちは税金と共に生きているのだと思います。



# 中学生の優秀作文

★福岡県納税貯蓄組合連合会 会長賞

筑前町立 夜須中学校

三年 三石 怜奈

## 「税金が教えてくれること」

私は、つい最近まで「税金なんかなくてもいい」「消費税引き上げなんてやめて」と思っていました。そもそも、何のために消費税があるのだろう、何の役に立っているのだろうかとよく知りもせず税金のことを悪く言っていました。ですが、今考えてみれば、そんなことを言っていた自分が馬鹿のようです。そう思うにいたった理由は、この作文を書くことを授業中に聞いたときに、税金の使われ道が気になり改めて調べたのがきっかけでした。そこで目に留まったのが救急車でした。そして、ある出来事を思い出したのです。

それは、私が小学四年生だったときのことです。家族でゆっくりしていたときに突然祖母から電話

がかかってきました。その電話の内容は、祖父が庭の木の手入れをしている際に、誤って足を滑らせ、はしごから落ちたというのでした。幸い命に別状はなく、足を骨折するだけで終わったのですが、やはり心配だったため夜にみんなが祖父のいる病院へ行きました。病院にいる笑顔の祖父を見たらとても安心しました。また、同時に祖父が自ら電話をしてすぐに駆けつけてくれた救急車にも感謝したくらいです。この出来事を思い出した私は、この祖父を助けてくれた救急車もまた、税金のおかげで駆けつけてくれたのだと考えさせられました。

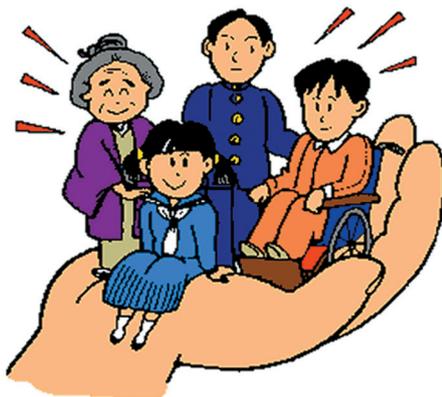
事実、今、年間の救急車の利用回数は約六百万件にもおよび、年々増加してきているそうです。

つい最近も家の近くや近所でよく救急車の音を耳にするようになりました。そんな風に救急車によって運ばれる人の中には、骨折や頭痛など、まだ回復の見込みがある方もいれば、心臓や脳などの命に関わる症状の方もいらっしゃると思います。そんな救急車はやはり祖父を助けてくれたように、これからもたくさんの人を運び、たくさん命を助けていくのだろうなと思わされました。

だから、私は今までの「税金なんかなくてもいい」などという考えを持っていた自分が馬鹿に思えてきたのです。このみんなが払う税金がなければ助けられる命も助けられないのだと、この税金があるからこそ助かった人もたくさんいるのだと思うと、今まではまた違った観点から税金を考えることが出来るようになりました。「税金」と聞いても難しくあまりピンとこないということがあるのだと思います。実際私もまだ、税金のことを詳しくは知らないし、これから税金とどのような関係についていくのかは分かりませんが、自分の身近にあるすべてのもの

のに税金が使われていると知れば税金もあまり遠い存在ではなくなると思えます。

私は、本当に税金は大切なものだということを教えられた気がします。税によって助けられる人がいるということからも、「税金」は私たちが快適な生活を送るために本当に必要なものだということです。





サービスをうけていると祖母から聞いた。

日本人の平均寿命はのび、高齢者の人口は増加する一方とのこと。元気で長生きする事はとてもうれしく思われる事だが、人はいつかはだれかの手をかりて生きていかなければいけなくなる。一生懸命社会にこうけんしてくださった方に対して、老後、不安などなく幸せに生活出来る環境を保しようとする事が大切だと思う。

私は、夏休み人權問題で、「高齢者問題」を取り上げて学習した。高齢化が進み、介護の問題は大きく取りあげられている。最も大変なものは、医りようひ負担ではないかという事を祖母に聞いた。ひいおばあちゃんが利用している施設の補助金は、税金からつかわれている事や利用者の方が介護保険を利用しその保険料は、公費が半分使用されることも知った。税金で老後を保障されている。

高齢化がすすみ、若者がへることによって、高齢者一人に対しての若者への負たんが大きくなると思われそのためにも今から国を

守っていく私たちが中心に税金をきちんとおさめることを学んでいかなければいけないと思った。また、私たちが大人になった時、働きやすい環境になっているかと不安にもなる。

私たちがあたりまえのように通っている中学校。中学校に通えるのは、日本の社会人の方の税金のおかげだ。とてもありがたいことだと思う。あたりまえと思っ生活している毎日の中に税のおかげで、豊かにさせてもらっていることを知らないことは、まだまだたくさんあると思う。

税について調べたり、考えたりすることによって今どのように税金が使用されているか等なかなか日頃関心を持つこともなかった税について学ぶきっかけになった。税によって、人と人が支えあったり、これからの日本が、税金によって豊かな国にもなることも知った。国民一人一人が税金のおかげで生活することが出来、社会人が納税するということは、大切だという事も知り、税のつかい道を決めてくださる方には、正しい使い方をしてほしいと思った。

日本の社会がゆたかになってほしいと思う。

今回学んだ事を日々の中学校生活や日常生活に生かしていきたいと思う。

## ★福岡県久留米県税事務所長賞

朝倉市立 甘木中学校  
二年 横江 摩耶

## 「税金の使い道」

私は、税金のことをあまり知らない。知っていることといえば消費税くらいだ。それにその他の税をどうやって集めているのか、その集めた税金がどのように使われているのかもあまり知らない。税のことを知るためにも、私は税金の色々な使い道について調べてみることにした。

最初に中学生の私達が普段使っている教科書、机やいす、給食や校舎の建設までも税金が使わ

れていることを知った。教科書が税金によって無償で支給されていることは以前学校でも習い、知っていたが、校舎の建設までも税金によってできていることは初めて知った。さらに、信号機や歩道橋、標識などの中学生だけでなく、だれもが普段使っているものまでもが税金によって作られていることを知ることができた。

税金についてどんどん調べていくうちに、こんな言葉を見つ



た。『復興特別税』東日本大震災の被害にあった被災地へ復興財源を確保するための税金。数年前の話ではあるが、少しこの事が気になった。私は震災の時、関東に住んでいて、地震も体験している。テレビで見た変わり果てた東北の姿を見て、これからこの町はどうなってしまうのだろうか、元に戻るのかと思った。その元に戻す手助けをするのが復興特別税。被災者が住む仮設住宅、町だったはずの所に押しよせてきた瓦礫の撤去、学校、公民館、市役所や消防署、警察署の建て直しや建築にも使われているという。被災者の心の傷が癒えることはないのかもしれないが、少しずつ震災前のような町に戻っていき、ほんの少しだけでも被災者の心が良い方に動いてくれれば、その税金を払う者、同じ日本人としてもとてもうれしいことだと思う。



ていた。しまいは、税金なんてなくてもいいとまで思ってしまうくらいだった。けれど、今は違う。税金は、私の知っている所や知らない所、色々な所で私達の生活を豊かなものにしていて、生きていて、なくなってしまうたら、今のような暮らしは絶対にできないだろう。税金は高い、けれど、払った分だけサービスとして返ってくるのだから大切なものなんだなと思った。中学生の今も大人になってからも、税金に感謝して日々の生活を送っていききたい。

★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立 南陵中学校  
三年 井上夏伽怜

「少子化と税金、そしてこれから」

みなさんは、税金と聞くと何をイメージしますか。僕は良いか悪いかでいうと悪いイメージのほうが大きいです。「消費税とかなん

でいると」。 「どうせ、むだに使いよるっちゃる。」と使っていました。しかし、租税教室を受けました。考えが変わりました。税金がなくなったり、払わなければ道路の整備を行ったり、事件や火事がおこったときに警察や消防をよぶのにもお金がかかる、町のゴミがそのまま放置されたり、学校にもまともにいけなくなり、年金の制度がなくなると高年齢者も働かないといけなくなり今の生活はこれわ

いくと知ることができました。実際にこんな生活をしたことがない自分には「あつ、そう。」 「ふーん。」としか思えませんでした。

しかし、税金について考えなお

す機会がありました。

自分は祖父の家に行くことが多く週に一度は行っています。祖母と祖父は行きたびに、「年金はもらえているけど、働かないと生活できないよ。少子化だからねえ。」

と、口をあわせて言っています。自分は、学校の社会の授業で「公民」を習っていて、祖母と祖父の会話で出てきた「少子化」という言葉を思い出しました。「少子化」というと単に、子供が減っているだけと聞いていたけど、それは違いました。気になって調べてみると「少子化」と「税金」は深くつながりがありました。祖母と祖父のいつていた「年金」これは、誰が出しているのか調べる、なんと、自分たちでした。「年金」は六十五歳以上の人が二十歳から六十四歳の人の納めた

税金からもらっていたのです。これはとても驚きました。さらに調べてみると二〇〇〇年では高齢者一人に対して三・六人が負担しているのに対して、二〇五〇年では一人に対して、一・二人が負担することになります。これは少子化による影響です。これを考えるとこれからの日本がとても恐ろしくなります。

ニユースなどで税金を滞納している人がいるというをよく聞きます。その人たちを見ると僕はこう思います。

あなたがもっているその一円を納めれば一人でも多くの人が助かるかもしれない。一人が一円というちっぽけなものでも、一人、また一人と多くなれば助かる人も多くなる、と。

そして、改めて自分の生活をみつめなおすと、買い物での消費税、祖父母が気にしていた年金。父母の納めている税金。そのすべてが自分たちの生活を豊かにし、国が国であるため、国民が国民として生きていくための大切なものだと思います。自分もちゃんと払える大人になりたいです。



## ★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校

二年 井手 美結

## 「税金の大切さ」

私たちが今、快く生活できているのは税金のおかげです。学校に

行くときの道、そして校舎、私たちの靴を入れる靴箱に私たちの授

業料、教科書に黒板、チョークなども税金でまかなわれています。そして、ありがたいことに今年には各教室にエアコンまでつけてもらうことが出来ました。私は、とても嬉しかったしとても感謝しています。だが私は、最近このようなことがあたりまえに感じて税金でまかなわれた大切なものを粗末にあつかってしまっているんじゃないかなとたまに思います。税金で買われたものは自分だけのではなくてみんなのものだから私もみんなも大切に出来てないんじゃないかと思えます。そういうえば最近、私たちの教科書に「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへ期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれています。私たちの未来のために教科書を無償で支給されてるなんて、とてもありがたいことだと思えます。それにもかかわらず、教科書で遊んで破ったり投げたり落書きをしたりしている光景を私はよく見かけます。まるで税金のありがたみなんて全くないようにも感じます。税金というけれど、税金

は、自然に出てきてくれるものではなく私たちの父や母が働いて、そこから国に納めた大切なお金です。だから、公共物も支給された教科書も大切にあつかわなければならぬと思います。私はおごづかいをもらい、文房具などを買った時に払う消費税くらいしかまだ払っていないけど、いずれ私も納税者になります。その時に公共物や教科書などを大切に扱われないでなかつたら、私はとてもがっかりして悲しい気持ちになると思います。世界には教科書が欲しくてももらえない子供がたくさんいます。日本の税金で貧しい国々に援助しているがそれでも間に合っていない。だからこそ今、たくさん勉強することが出来る私たちが、たくさん学び将来のために役立てて行かないといけないと思えました。税金が無くなる、今と同じような生活はできなくなります。税金があるから今の生活ができているということを忘れずに、これから感謝して、税金を払っていききたいと思えます。そして、この世界で本当に役立つことに税金は使われていってほしい

です。だからみんなもこの助け合いが続いていくためにも税金がなくならずにきちんと納税する社会をつくっていききたいと思います。



★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校  
三年 酒井 美里

「税の必要性」

「えっ！消費税って上がるとね。」

そう思ったのは、消費税増税のニュースをテレビで見ている時。その頃の私は、税のこともよく知らずに、ただ嫌だなという気持ちと、何で消費税を増やさなきゃいけないのかという疑問でいっぱいでした。

テレビのニュースでは、脱税をした政治家が謝罪する姿、国の費用を横領して自分の為に使う人の姿を、何度か見ました。政治の難しい話とか、詳しい内容を知らない

い私でも、その人達がどんなことをしたかくらいは分かります。唯一分かることだからこそ、より鮮明にそのニュースは私の頭の中に焼きつかれているため、疑問は増える一方だったのです。

そんなある日、私はテレビであるチャリティー番組を見ました。そこには、二〇一一年に起こった東日本大震災で被災した、たくさんの方々の今までの生活の姿がありました。その方々は、生活はできているものの、家族や友達、家や財産などのたくさんの方々の大

切なものをなくしてしまったのです。その時に私は、遠いこの福岡から少しでも被災した方々にできることはないか、と思いました。実際に被災地に行くことはできないので、お店に置いてある募金箱に募金することくらいしか私にできることはありません。

でも、みんながみんな募金をすることができると言ったらそうじゃないし、消費税が増税されたから余計に募金をする人は少ないと思います。

そこで私はテレビのニュースで見た、政治家などの脱税・費用の横領を思い出しました。そのように、悪い方向に私達のお金が使われることもあります。それ以上にたくさんの方々の場所で税金がよい方向に使われています。

消費税が増税することで、生活が苦しくなる人もいると思うし、好きなものを今までよりも制限しなければいけない人もいます。私は本を読むことが好きなのでよく本を買うのですが、消費税が増税したので、一回に買う本の量を考え直さなければいけないし、買う

本の量が減ってしまいます。でも、消費税で被災した方々の力になれるなら、私は増税してよかったなと思います。

消費税が増税することで困る人はいると思います。

でも、国からの補助金を必要としている人がたくさんいるのも事実です。特に被災した方々は、大切なものや人まで震災でなくしてしまいました。

だから今となつては、増税してよかったと思っています。私達が払った税で少しでも被災者のためになれば、少しでも被災者の傷が癒えるなら嬉しいです。被災地の日でも早い復興を私は願っています。



## ★朝倉地区租税教育推進協議会 会長賞

朝倉市立 甘木中学校  
二年 永利 美郷

## 「税について」

税金とは、生きるうえで国に払う、大切なお金のこと。

定期的に支払って、それで幸せな生活を得られる。

消費税はすでに、五パーセントから八パーセントに増税され、「すでに増税されてしまったものについて、今更云々しても、仕方ないだろう」と思う人もいるかもしれない。しかし、今後さらに八パーセントから十パーセントへの増税の議論が控えていることや、この増税による景気減速にどのように対処すべきか等の問題がある。

消費税の効力。現在の日本のようなデフレ不況期における消費税増税は、景気を急激に悪化させる。不満を持つ人は多くいると思う。なぜなら、私もそんな一人だから。増税は、人々の苦悩を呼びこむ。「この世は『金』で成

り立っている」だなんて、どっかの馬鹿の言いそうな言葉、きつと当てはまっているのだろう。しかし、金だけでは全ては叶わないのは、いつでも同じだ。

消費税引き上げによる財政再建は、可能なかという質問。現在の日本政府債務残高は千兆円を突破し、この数字だけを見るなら早急に対処すべき、非常に深刻な事態であるように思える。「明日にでも、日本が破綻する」などということは到底考え難いことで、有り得ない。世間ではそう言っても、日本がいつ破綻するかなんて、誰も分からないこと。心配しないままでいたモノが、いつかは心配の的になるのは、在り来りのパターンだ。

税と社会保障の一体改革という事について考えよう。これについての議論自体は一理あるとは思

う。社会保障のような重要な支出項目の財源を、できる限り景気の変動による税収の上下が少ない消費税によって賄うというのは、悪い話ではない。これも、景気の悪化を加速させる。

前二枚のように、「現時点」で、「消費税」を引き上げるといふ判断をする異常を伝えてきたが、そこに至る議論の行い方も納得することができない。

## ★公益社団法人 甘木朝倉法人会賞

朝倉市立 甘木中学校  
一年 浜川 真実

## 「未来へのかけはし」

私は今、この一分一分を幸せに生きていることはすべて税金のおかげだと思っています。

今ここにある教科書も現在中学校に行けるのも税金。ほかに、高齢者が安心して医療施設に入れるのも税金のおかげです。

しかし、今この六十五歳以上の高齢者一人に対する介護師が減っているのが問題になっています。私がテレビで見た時には、医療施

私事だが、私は政治が嫌いだ。今おこっている、国民の反対の声も聴く耳をもたないで勝手に進める。この間だって、買物の帰りに、最後尾の見えない程の「否定」の行列があり、私よりも小さな子供がそれに参加していた。今後「税」についての問題に、国（政治）がどう対応するか、私は見守りたいと思う。

設に入りたい高齢者は山ほどいるけど、介護師が少なくて入れない、という現状でした。

このままずっとこの問題がずっと、六十五年後（二千五十年）、ちょうど私達が高齢者となっている時、一人につき介護師の人数は一・二人となってしまう。でも逆に一人に対して一・二人なのだから多いと思う人もいます。しかし、十五年前

(二千年)の時は一人に対して三・六人でした。私は、この二・四人の差はとても大きいと思えます。それはなぜかというと、四捨五入していままでも約四人でしていた事が約一人になっているからです。

今の時代、「少子化」といって子どもが一年に生まれる数が少ないです。だから、今私達のはらっている税金をつかい、より多くの高齢者の方々に医療施設に入ってもらいたいです。数少ない介護師はその施設を点々とすれば良いと思います。

あと私はもう一つ気になることがあります。それは「世界の一つの国でなぜ税金がちがうのか」ということです。

世界で一番税金が高い国はデンマークだそうです。デンマークでは、年収の約三分の一が税金になるそうです。分かりやすくいうと日本の約五倍(四十円)です。それでも、デンマークは、高齢者がこまらない国でも一番です。この結果を聞くと、だれだっって税金のおかげだと思ってしまう?

過去の世界では、今の高齢者の

方々が引つ張り、豊かにし、現在というこの幸せな環境をつくってくれたから、私達からは「恩返し」、として高齢者の方々に「おだやかな老後をすごしてほしいです。そして、私達が高齢者となった時、その時の若い方々が税金をつかい、恩返しをしてくれると思います。だから私は税金のことを「未来へのかけはし」と思っています。現在、「税金を上げるな。」なんて言ってる人は、自分が将来、「税金が足りなくて、医療施設に入れられない、しかもお金もない。」なんて言っ泣く人だと思います。

自分の将来にもつながる税金だからこそ、ワガママ言わずにちゃんと払い、人と人とが手を取りあう、豊かな国にしたいです。

「税金を払った分、未来の自分には幸せな老後」、税金を払うという事は、結果的にはこういうことになると思いませんか?

# 税の標語

全国間税会総連合会 入選

その税が たくさん笑顔を 作ってる

三輪中学校 二年 山田 大斗

税のこと 使い道まで よく知ろう

甘木中学校 三年 北原 真優

未来への 社会につなぐ 消費税

比良松中学校 二年 田中 美佳

税を知る まずはそこから はじめよう

杷木中学校 三年 森尾 文香

消費税 みんなの未来 託してる

東峰学園中学校 一年 和田 琉雅

甘木朝倉間税会が募集した「税の標語」です。本年度は管内中学校9校から二〇二二点の応募がありました。

# 租税教育活動を やっています

甘木朝倉地区税務連絡協議会では、構成団体が協力し、税知識の向上及び納税意識の高揚を目的にさまざまな活動をおこなっております。



法人会女性部会による学童保育所での租税教室



法人会による小学校での租税教室

甘木朝倉地区  
税務連絡協議会とは？

## ★構成団体は？

- ・ 公益社団法人甘木朝倉法人会
- ・ 甘木税務署管内青色申告会連合会
- ・ 甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会
- ・ 朝倉地区  
税務相談所運営協議会
- ・ 甘木朝倉間税会
- ・ 甘木税務署管内酒類業懇話会
- ・ 九州北部税理士会・甘木支部

## ★何をしている団体ですか？

- ・ 一般の方々の税知識や納税道義の向上を目的とした様々な活動を行っています。
- ・ 中学生や高校生の税に関する優秀な作文を表彰する等して、租税教育の支援をおこなっています。